

飯伊地区 産業経済動向

No.515 2022/2
(4.3.25発行)



IIDA SHINKIN BANK
飯田信用金庫
しんきん南信州地域研究所

http://www.iidashinkin.co.jp
〒395-0044 飯田市本町1-2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132

飯伊地区主要経済指標

主要指標	実数	前月比	前年同月比	前々年同月比	
手形交換高 (飯田手形交換所扱)	枚数	2,151 枚	△ 8.5 %	△ 9.5 %	△ 13.5 %
	金額	2,633,930 千円	△ 26.6 %	△ 25.2 %	△ 22.0 %
うち不渡発生状況	枚数	0 枚	(前月 0 枚)	(前年同月 0 枚)	(前々年同月 0 枚)
	金額	0 千円	(前月 0 千円)	(前年同月 0 千円)	(前々年同月 0 千円)
倒産件数 (負債額1千万円以上)	県内	3 件	(前月 5 件)	(前年同月 9 件)	(前々年同月 6 件)
	飯伊	0 件	(前月 0 件)	(前年同月 1 件)	(前々年同月 0 件)
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数)(1月)	43 戸	△ 20.4 %	2.4 %	△ 59.8 %	
有効求人倍率(パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内)(1月)	1.54 倍	(前月 1.54 倍)	(前年同月 1.24 倍)	(前々年同月 1.43 倍)	
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	1,782 台	1.0 %	△ 18.7 %	△ 19.9 %
	中古車	627 台	19.7 %	△ 5.7 %	△ 9.4 %
軽自動車新規登録台数 (軽自動車協会連合会長野事務所) (1月)	新車	3,220 台	△ 2.8 %	△ 16.9 %	△ 12.6 %
	中古車	784 台	△ 14.5 %	3.2 %	3.4 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	69,437 台	△ 11.0 %	△ 8.3 %	△ 27.3 %
	出	69,684 台	△ 11.1 %	△ 9.5 %	△ 27.4 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	40,492 台	△ 13.2 %	△ 25.5 %	△ 38.6 %
	出	38,802 台	△ 8.1 %	△ 26.5 %	△ 37.8 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	10,216 台	△ 10.4 %	16.9 %	△ 17.2 %
	出	10,168 台	△ 9.2 %	16.0 %	△ 19.6 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	29,702 台	△ 10.2 %	10.0 %	△ 13.1 %
	出	29,068 台	△ 8.0 %	5.7 %	△ 14.3 %
中央道利用台数 (座光寺スマートインター分)	入	24,173 台	△ 9.3 %	- %	- %
	出	24,019 台	△ 8.9 %	- %	- %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)	111 件	40.5 %	△ 37.6 %	△ 25.0 %	
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)	1 件	(前月 9 件)	(前年同月 3 件)	(前々年同月 5 件)	
高速バス乗車人数	飯田～新宿	5,294 人	△ 52.0 %	25.8 %	△ 74.6 %
	飯田～名古屋	5,183 人	△ 33.6 %	34.7 %	△ 65.6 %
	飯田～長野	2,030 人	△ 28.9 %	△ 31.2 %	△ 72.8 %
	伊那・駒ヶ根～新宿	4,395 人	△ 41.7 %	83.7 %	△ 74.1 %
市内循環バス乗車人数	左回り	2,332 人	18.5 %	1.9 %	△ 23.3 %
	右回り	2,136 人	3.8 %	△ 11.8 %	△ 31.6 %

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ (http://www.iidashinkin.co.jp) に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみならずともに行っています。



100%植物性インキ
[リサイクル紙100%]を使用しました。

再生紙を
使用しています

地区内製造業の景況判断指数

概況 景況DIはやや悪化、ウクライナ情勢が今後の大きな不安要素

当月の製造業の業況判断指数（DI）は、0.0で、前月から3.8ポイント低下。コロナ禍による影響が長期化する中ではあるが、景況感の大きな悪化にはつながっていない様子。一方で、ウクライナ情勢を懸念する声は多く、足元での影響は見られないものの、今後長期化した際の資材調達、資材価格への影響について心配する声が複数寄せられた。

主な業種の動き

●電気・精密・光学

受注、販売…受注は横ばいとの声が多い。販売は、業者により増減分かれる。景況感については概ね横ばいとの声が多数を占めた。

原材料価格…上昇傾向は変わらず、販売価格への転嫁も思うようには進まないとの声も。

[企業からのコメント]

- ・景況は少しずつ回復してきているが、ここへ来て半導体の入手不足・価格上昇、原油高、ウクライナ紛争による影響で、この先の状況はさらに不透明になってきている。
- ・「半導体の価格上昇が止まらず。製品への価格転嫁も難しい」「原材料単価は上昇しているが、売価には簡単に反映できない」

●半導体、液晶製造装置向け機械部品

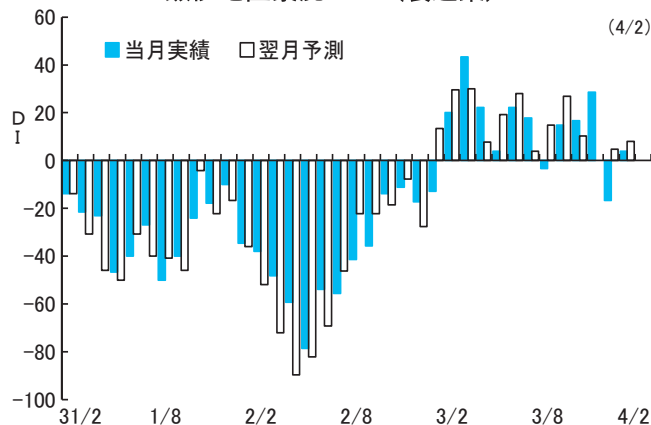
受注、販売…受注の前月比は業者により増減分かれるが、販売は前月比、前年比ともに増加という。景況感は、一部にやや悪化との声もあるが、横ばいとの声が多い。

原材料価格…多くの材料が上昇。各社が販売価格への価格転嫁を進めているが、短期間での価格反映は難しい様子。

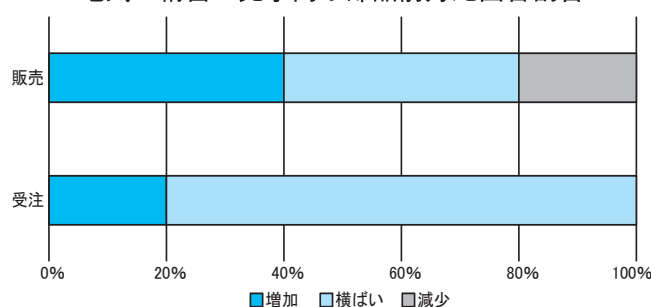
[企業からのコメント]

- ・慢性的な半導体不足から、半導体製造装置への投資は過熱している。2022年後半には半導体不足が解消に向かう予測だったが、2025年頃まで解消しないという予測も。大手企業も、2023～2024年の増産に向けた工場建設・設備導入を加速している。ウクライナ情勢、世界的な部材不足による調達リスクは懸念されるが、中長期的には右肩上がりの予測となっている。
- ・当社メイン顧客が、エンドユーザーの半導体不足により生産を減少しているため売上が伸びていかない。その他の顧客は良好であり、一部には6月までの注文をもらっている先もある。
- ・半導体製造装置を手掛けるサプライヤーは増産の対応に四苦八苦している。今後さらに増産が見込まれることから、設備・建屋増強プランの提示が求められており、慢性的な人員不足問題を含めて、厳しい対応となっている。
- ・半導体不足、燃料の高騰に加え、ウクライナ情勢の悪化は厳しい。現在のところ大きな影響は出ていないが、今後の心配。

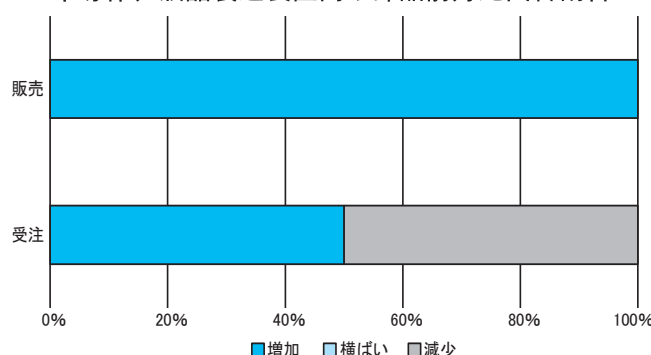
飯伊地区景況DI（製造業）



電気・精密・光学向け部品前月比回答割合



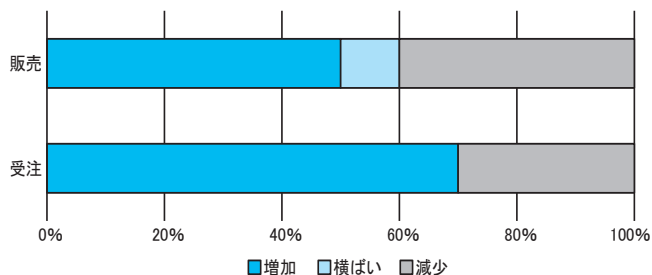
半導体、液晶製造装置向け部品前月比回答割合



●産業機器、医療機器向け等機械部品

- ☑受注、販売…受注、販売ともに増加との声が多いが、減少の声もあり二極化している印象。景況感についても、悪化と好転の両方の声が聞かれた。
- ☑製品価格……やや上昇との声が多く聞かれた。ただ、原材料価格の上昇には追いつかないとの声も。

産業機器、医療機器向け部品前月比回答割合



[企業からのコメント]

- ・FA 関連ではロシアウクライナ情勢が今後の大きなポイント。金属の大手精錬メーカーがロシアにあることから、金属加工業には少なからず影響が出てくる見込み。今後の情勢によっては、厳しい局面を迎えることになる可能性も。
- ・リピート生産品の増産依頼があった。輸出国が回復したと思われる。
- ・コロナ禍において、「選択と集中」の戦略で活路を開きたい。

●半生菓子、菓子原料等

- ☑売 上……前月比は横ばい～やや増加。景況感は横ばい～やや改善も、コロナに加え、ウクライナ情勢の悪化による消費の停滞を懸念する声が聞かれた。
- ☑原材料価格…上昇傾向が継続も、販売価格は変わらず。今後、値上げ交渉をするとの声も。

[企業からのコメント]

- ・「春商戦は好調も、続くのかはわからない」「コロナが落ち着くと思ったらウクライナの戦争で、消費の冷え込みが心配」
- ・「先日、小麦の政府売渡が17%値上げとの報道にあるように、食品関連は最高値となりそう」「副原材料はさらに値上げ」「うまい棒の値上げが話題になったように、菓子業界も値上げするメーカーが増加している」

●水引、冠婚葬祭・祝儀用品

- ☑売 上……前月比は減少～横ばい。景況感は業者によって見方が分かれた。
- ☑原材料価格…全ての事業者で上昇という。原油価格の他、海上運賃の値上がりが影響との声。

[企業からのコメント]

- ・「EC は昨年対比で売上が大きくアップしたが、既存先の売上は若干減少」「販売は前年より良かったが、先行きは不透明。良い対策が見つからない」
- ・世の中は義理人情と決別する時代であり、対策に苦慮。今後は利益率を上げることでしか生き残れない。
- ・「原材料価格の変更が全般に及び、各社とも値上げ発表に忙しい」「海上運賃の大幅な値上がりが影響」

●漬物

- ☑売 上…前月比、前年比ともにやや減少。

[企業からのコメント]

- ・まん延防止等重点措置の影響もあってか、業務用需要は波がある。スーパーも既存店売上高は前年割れと聞くが、コストが上昇する中、食料品に対する低価格志向は今後も続くと思われる。
- ・ウクライナ情勢もあり、今後さらなる原価の上昇が懸念されるが、当業界では様子見なのか、値上げの機運が見られない。

●上記以外の製造業

- ☑建築用金属製品…販売は、前月比、前年比とも増加との声。景況感に大きな変化は見られない。
- ☑自動車向け部品…販売は前月比、前年比ともやや減少との声。景況感は横ばいという。
- ☑印刷、出版関連…販売は前月比やや減少という。4月から原材料価格がさらに上昇との声。
- ☑服飾製造……販売は前月比やや減少、前年比も減少。先行きはやや改善を見込むという。

[企業からのコメント]

- ・建築関連は地域に関係なく低調。スーパーゼネコンが中規模物件にまで手を出してきて、価格競争が激化してきている。
- ・コロナ慣れといっても良いのか、少しずつイベント関連の開催が見込まれるようになってきた。ただ、今までよりも規模的に縮小となり、売上額が大きくダウンする傾向にある。
- ・服飾に関して、国内での商品供給量が足りていない。海外の実習生が入国待ちの状態が続いていることから、おそらくワーカー不足になっており生産量が落ち込んでいるためと思われる。
- ・「4月出荷分から、原材料が平均10%上昇」「アルミ高騰により印刷用刷版が昨年11月に値上げされたばかりだが、4月に再度の値上げ話あり。ウクライナ情勢が大きく影響」「受注金額にどのように転嫁していけるか、大きな問題」
- ・SDGsに即したモノ作りや素材開発が進んでおり、新規受注はこのキーワードが大半を占めている。その上、廃棄処分している製品のリサイクル、リユース、リデュースが課題となっている。
- ・「人員は現状充足しているが、今後不足の見通し」「ワーカー不足。今後は実習生で補うほか、新卒の採用を増やす予定」「現状は人員不足。中途採用を求人中」

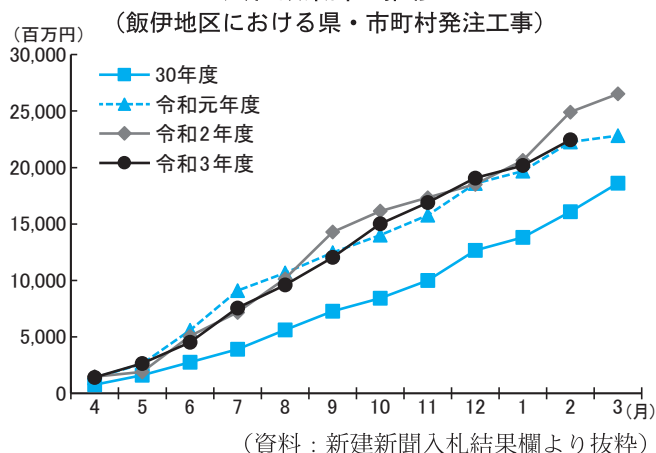
建設業

官公需

概況 2月の公共工事入札金額は、前月比増加、前年比では減少
工事量はあるが、資材高騰により経営環境は悪化

- ☑公共工事入札額…当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約22.7億円。前月比104%増加も、前年比では47%減少。(3月25日調査時点)前年2月(42.8億円)からは大幅減少も、一昨年2月(25.8億円)並みではあった。
- ☑受注残高…業者により増減分かれるが、年度末に向けて進捗が進むため減少との声が多い。
- ☑景況感…概ね横ばいとの声が多数だが、先行きについては悪化と好転で見方が分かれる。
- ☑原材料価格…多くの事業者で上昇傾向が続く。

入札額累計の推移



[企業からのコメント]

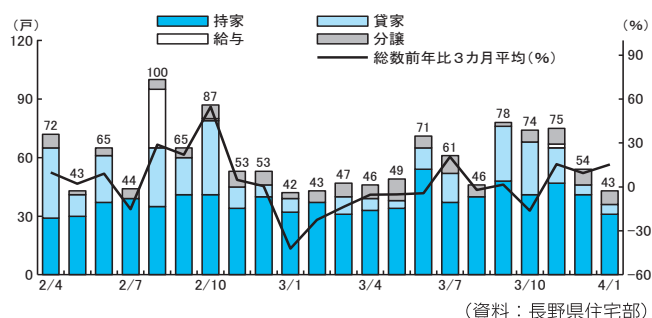
- ・「国、県の発注工事と繰り越し工事、仕事が途切れることはない」「4月以降の仕事量がなかなか見えてこない」「リニア本体工事・関連工事もあるため、人手不足はしばらく続きそう」
- ・「各種資材の値上げが継続。設計単価の変更や納期対応に対処してほしい」「半導体不足、燃料高騰で建設資材、建機価格が高騰し、経営を圧迫」「生コンの販売も、新年度から値上げ」「新型コロナ、ウクライナ情勢により、建設資材が高騰」

民需

概況 令和4年1月の住宅着工戸数は43戸で前年比で微増。
貸家は少なく、持家住宅が下支え

- ☑住宅着工戸数…当地区の1月の住宅着工戸数は43戸。前月比20%減、前年比では2%増。12月～1月は前年とほぼ同じ戸数となっており、次月以降も注視したい。
- ☑景況感…やや悪化～横ばい。住宅需要はまずまずも、大型工事は少ないとの声。
- ☑原材料価格…値上がり継続に加え、半導体の不足により商品が欠品することもあり、工期に影響しているとの声も聞かれた。

飯田市・下伊那郡 住宅着工戸数の推移(用途別)



[企業からのコメント]

- ・業界として全体的に、半導体不足の影響で商品が入ってこないため、工事の遅れが出ているところもある。
- ・コンクリートから鉄物、木材製品は値上がりが続く、衛生器具などは品物が間に合わないなど、建築に携わる者の環境は厳しい。ただ、他の業界に比べればこの業界はまだ良い方なのかもしれない。
- ・職人は高齢化が進んでおり、若返りが必要と感じている。

建設資材等

概況 2月の生コン、骨材の売上は前月比、前年比ともに増加

- ☑生コン…売上の前月比はやや増加～増加。前年比では大幅増加との声も。
- ☑骨材…売上の前月比は増加。前年比でもやや増加～増加との声。

[企業からのコメント]

- ・当月の生コンの主な出荷は、三遠南信工事、リニア関連工事、護岸工事、床固工事、治山工事、工場建築工事、トンネル工事に関わるものだった。リニア関連工事の出荷量は、当月出荷量全体の15%強。
- ・材料メーカーが値上げの話で来社する機会が多かった。当方も、材料値上げに伴う生コン単価値上げの連絡、説明に追われた。
- ・弊社にとっても業界全体としても、活発な動きのあった月だと思う。生コンが活発なことが一番の要因だが、その他にダンプカーの必要な仕事も多く、公共工事のダンプカー不足は深刻な問題になりつつある。

商業・サービス業

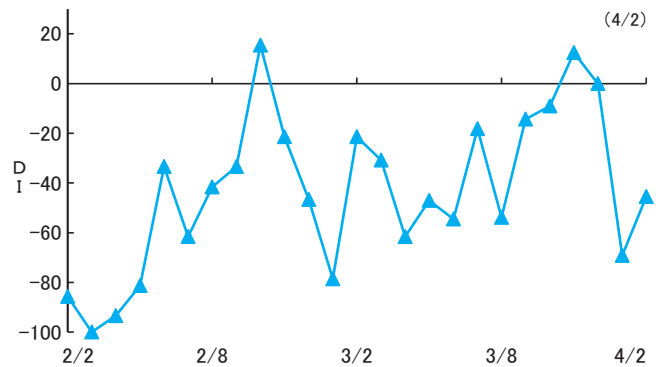
概況 景況感はやや改善も、本格的な回復には程遠い状況

当月の商業・サービス業の業況判断指数（DI）は、マイナス45.5で、前月から23.7ポイント上昇。

1月下旬から県内全域でのまん延防止等重点措置適用により、飲食・宿泊・運輸業を中心に厳しい声が大勢を占めた。3月以降に期待する声もあるが、短期間での回復には否定的な声が多い。事業復活支援金等の各種施策利用により、この局面を乗り越えたいとの声も聞かれた。

原油価格の高騰による仕入単価上昇が続く中、ウクライナ危機も加わり、春以降のさらなる値上がり懸念する声が寄せられた。

商業・サービスDI



主な業種の動き

●小売業 概況 売上は前月比減少～やや減少、前年比でもやや減少との声

☑売上……前月比で減少～やや減少との声。景況感はやや悪化～横ばいという。

☑仕入単価…上昇との声が引き続き多い。

[企業からのコメント]

- ・昨年秋から1月まで順調に推移したため2月は売上減少となったが、3月以降は増加する見込み。
- ・店舗改装による休業期間があったが、改装後の売上は順調で、想定よりも売上の減少幅は抑えられた。
- ・「油、小麦関係、パン等の値上げが続く」「4月以降、様々な商品が値上げとなる見込み」

●卸売業 概況 景況感はやや悪化～横ばい。仕入価格の上昇は多くの事業者に及ぶ

☑売上…2月は営業日数が少なく前月比減少との声もあるが、業種によっては増加との声も。前年比も業者により増減分かれる。

[企業からのコメント]

- ・野菜は、コロナの影響もあって重要野菜の動きが鈍いが、今冬の寒さで入荷が少なく価格が上昇したため、売上としてはやや増加となった。果実では、みかんは昨年から入荷が半減。輸入柑橘類も、アメリカの出荷がコロナによる人材不足で入荷が減少。りんごも平年より作柄悪く入荷が減少、苺は価格高。果実全体では、入荷減の価格高で売上は微増。
- ・全般的な商品不足の中、「間に合う商品」「取れる商品」でどうにか間に合わせている状況。また商品不足にならないように通常より在庫を多く抱えなければならないのは厳しい。まん延防止等重点措置が終了し、企業活動が活発になることを願う。
- ・DX等を活用した企業活動への移行が進んでおり、通常の流れとは大きく変わることが予想され、対応が必要。営業活動は当然だが、ビジネス環境の激しい変化に順応していくことも今後の課題である。
- ・「大手メーカーは4月からさらなる値上げが予定されている」「全般的に塗料、副資材とも値上がりが続く見通し」

●飲食・宿泊・運輸業 概況 景況感に改善は見られず。冬の寒さも売上に影響との声

☑売上…売上は、前月比ではほぼ全ての業者で減少。前年比でも減少との声が多い。まん延防止等重点措置の解除後に期待する声もあるが、次月以降も厳しいとの声強い。

[企業からのコメント]

- ・まん延防止等重点措置の時短要請と酒類提供不可により、お食事会や宴会等の営業は全くなかった。テイクアウトや食堂の売上も冬の寒さにより人の出入りは少なく、大変厳しい月になった。3月後半からの回復に期待しているが、予断を許さない状況である。
- ・昨年も悪かったが、今年は夜の来店がない。今年は寒くて雪も多く、お客様が来ない。協力金、支援金に頼りたい。
- ・まん延防止等重点措置により夜間のタクシー需要は皆無。昼間の利用者も、外出自粛により半減。
- ・宿泊部屋の稼働率は非常に厳しい。辛うじて県民割に支えられている状況。まん延防止等重点措置は解除されたが、一層の自己防衛としてマスク着用、手消毒、黙食を再度徹底させる。
- ・「原油価格の高騰で船の燃料が上がり、魚代も上がり始めた。来月からは一般の材料費も値上がりとなり、テイクアウトの容器も値上がりする」「LPG価格も値上がりしているが、ガソリン、軽油に関してはLPG以上に値上がりしている」「電気代や灯油ほか、何もかもが値上げ。販売単価の見直しも検討」
- ・今回の飲食店への時短要請は、昨年は丘の上エリアに対してだったが、今回は全ての飲食店に対してのため、各社とも危機的な状況である。今後の経営、事業継続、雇用の確保等、大きな問題が山積している。
- ・同業者が皆疲弊しており、経営者の心が折れないこと、店の存続も自分自身の心にかかっていると感じている。回復した時を見据え、今後の種まきも考えていきたい。
- ・この地域が公共交通空白地域となっはいけない。そうなるからの改善は非常に困難。

佐久市・佐久平駅地域研究序説

～新幹線駅と地域づくり・まちづくり～

新幹線駅並びに駅地域として、数ある新幹線駅地域の中で佐久市・佐久平駅は興味惹かれる駅・駅地域となっている。同駅地域を訪れたいとの思いを予てより抱いていたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延でこの2年余りを出かけられずに居る。せめてコロナがある程度収束する日を待望しながら、同市・駅地域のアウトラインを整理してみたい。

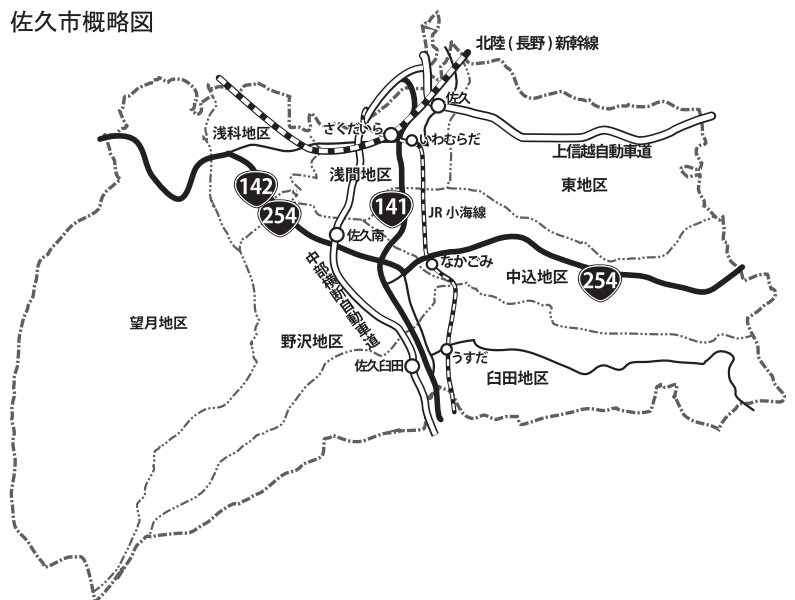


北陸（長野）新幹線佐久平駅

1. 若いまち

佐久市の資料では市政施行平成17年となっているが、これは（旧）佐久市と北佐久郡望月町・浅科村及び南佐久郡臼田町の新設合併により発足したもので、（旧）佐久市は1961年（昭和36年）北佐久郡浅間町・東村及び南佐久郡野沢町・中込町が合併し発足した（右概略図）。飯田市で言えば1956年（昭和31年）飯田市と座光寺、松尾、竜丘、三穂、伊賀良、山本、下久堅の各村合併、佐久市と同年の1961年には川路村編入がある（飯田市の市制施行は1937年（昭和12年））が、これを踏まえると佐久市は歴史の新しい市となる。

佐久市概略図



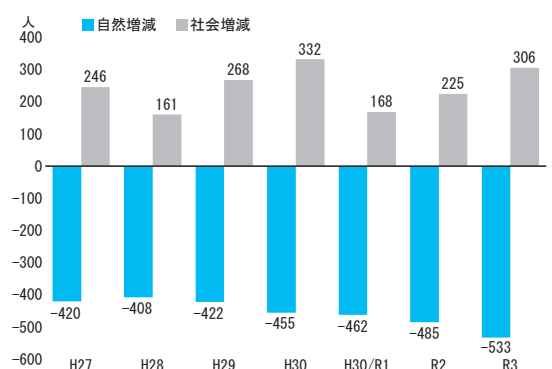
合併の経緯から佐久市には岩村田、中込、野沢、臼田などの旧村からの中心街（商店街なども）が多極的に形成されているとされたが、新幹線佐久平駅営業開始と同駅周辺整備により、その様相は大きく変化しつつあるようである。

2. 人口流入が著しいまち

佐久市で特筆されるのは人口の社会増が続いていることである。平成27年からの佐久市人口の自然増減と社会増減の推移は右グラフ1の通り。社会増は令和元年度にやや少なくなっているがその後増加に転じている。これにはコロナによる大都市圏からの移住も取り沙汰されているところである。

同市の社会増減の特徴は（グラフ2、2020年）、10代と20代は社会減となっているが、他の年齢区分においては50代を除き年間100人近い社会増が生じている。

グラフ1 佐久市 自然増減と社会増減



（長野県企画振興部プレスリリース各年版から作成）

同市は以前から新幹線通勤を中心として移住促進策をパッケージ化して推進しており、この政策効果についての検証がポイントになると思われる。

他方で、同市の自然減は逡増傾向を示しており（グラフ1）、結果総人口減が続いて平成27年国勢調査時点で10万都市を割り込んでいる。自然減については、昭和36年および平成17年の合併の旧村別の人口推移がカギとなるものと考えられる。

3. 新幹線と産業構造

佐久市の産業別就業人口の推移を飯田市との比較でみると、北陸（長野）新幹線開通（平成9年）以降第3次産業の就業人口が急速に増加しているように見える。佐久市によると、第1次産業から第3次産業へと比重が移り、第3次産業の中でも卸・小売業、金融・保険業から不動産業、運輸通信業、サービス業へとウェイトが移っていることを示唆している。

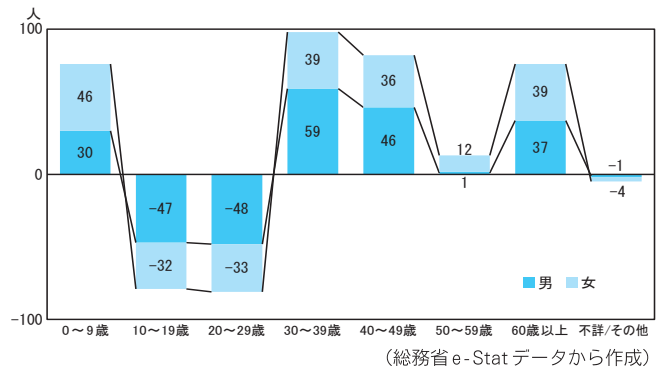
新幹線開通が「経済のサービス化」にどのような影響を及ぼすか、それを検証する中で当地域の今後の産業動向を見通すことができるのでは、と思われる。

4. 新幹線とまちづくり

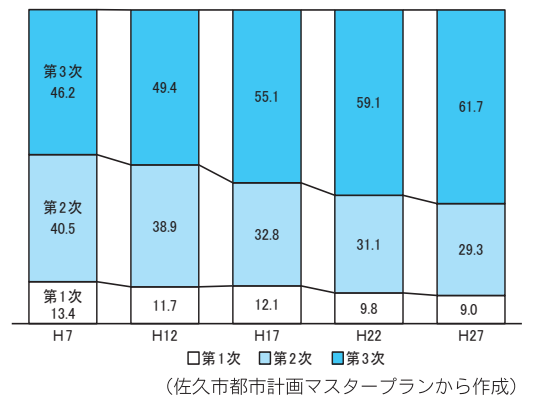
佐久平駅周辺では、「佐久平駅周辺区画整理事業」に続いて隣接する南側区域約21.4haを「佐久平駅南土地区画整理事業」平成30年1月に都市計画決定告示、令和2年1月には仮換地指定がなされ、令和4年の公共施設工事・造成工事完了を目途に進められている模様である。

新幹線開通後に進む地域の変貌とそれに対応するまちづくりに関して、佐久市・佐久平駅地域の取り組みを通じて当地域を考えていくこととしたい。

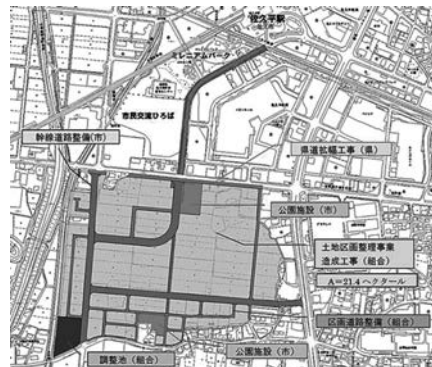
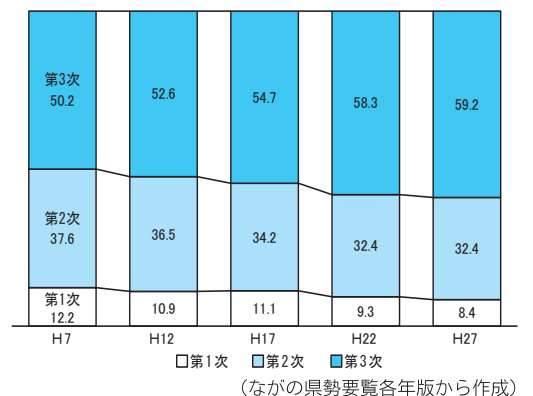
グラフ2 性別・年齢区分別転入超過数 佐久市2020年



グラフ3 産業別就業人口推移 佐久市



グラフ4 産業別就業人口推移 飯田市



佐久平駅南土地区画整理組合資料より

(飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 リニア・三遠南信対策室 加藤 修平)

新幹線駅の利用者調査

整備新幹線駅が設置された自治体などで、開業後に新幹線駅利用者の属性や利用方法などを調査し、地域づくりに活かしていることがある。

今回はいくつかの駅の利用者調査により、地域における新幹線利用の一端を考えてみたい。

1. 生活の足として使われる九州新幹線。久留米駅では通学にも利用される実態が明らかに。

2011年（平成23年）3月、博多駅－鹿児島中央駅間の全線が開業するとともに、山陽新幹線との直通運転を開始した九州新幹線（鹿児島ルート）。

㈱九州経済研究所が2019年に行った調査では、ビジネス（出張）を目的とする利用者の割合が最も大きくなっている。

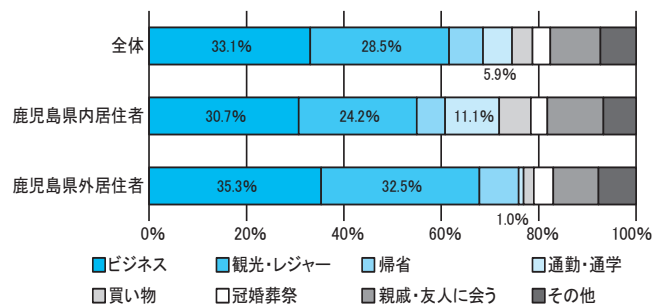
また、ここにいる「その他」の中には、就職活動、就職説明会、採用試験などのほか、通院、習い事など多岐にわたる利用目的が含まれているとみられ、九州新幹線は沿線住民の生活の足として利用されている様子がうかがえる。後述するが、北海道新幹線では観光目的の利用割合が高いことを考えると、新幹線の利用目的は地域によってかなり異なっていることが予想される。

この調査では、通勤、通学目的で新幹線を利用する鹿児島県内居住者が11.1%ある。JR九州は新幹線の定期利用割合がJR各社の中で最も大きい、これには従来から在来線特急で通勤していた利用者が、新幹線開業に伴う在来線特急の廃止によって新幹線を利用するようになった側面もあり、料金の高さや停車駅が少ないといった不便もあるという。

一般道を利用して博多駅から約40キロ南に位置する人口約30万人の福岡県久留米市にも新幹線駅がある。人口10万人当たりの医師数（平成27年国勢調査人口よる）が全国1位など、医師の町と知られる久留米市には、昭和3年に創立された九州医学専門学校を前身とし、現在では6学部、12学科、5大学院を擁する私立久留米大学がある。

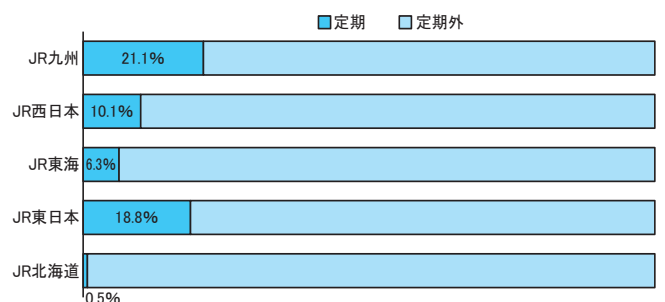
先に九州新幹線では通勤、通学目的の利用者が一定数あることを述べたが、久留米市を始め2市3町からなる久留米定住自立圏が九州新幹線全線開業直後の平成23年9月に行った調査では、在来線が乗り入れる久留米駅から乗り継いで久留米大学、久留米高校に通学する利用者が、平日、休日を問わず一定数あった。通学利用者では女性の割合が高く、一人暮らしをせずに済む学生や、その親の新幹線利用の満足度は、通勤と異なり、高いとする見解もある。

新幹線利用者の利用目的



鹿児島中央駅で調査
（資料：株式会社九州経済研究所「九州新幹線全通8年後の利用状況調査」）

新幹線 旅客輸送量（2020年度）



原単位：千人キロ （国土交通省 鉄道輸送統計調査）

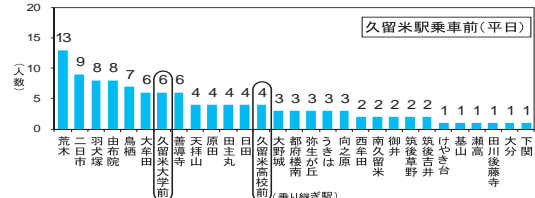
久留米駅からの交通機関別所要時間

	車	在来線	新幹線
博多駅	約50分	約35分	約20分
熊本駅	約1時間30分	約1時間25分	約30分
鹿児島中央駅	約3時間10分		約1時間30分

<久留米駅 平日>

・在来線の乗継では、乗車前、降車後ともに多様な駅の利用がある。

▼新幹線乗車前に在来線を乗り継いで来られる方の在来線乗車駅



▼新幹線降車後に在来線に乗り継ぐ方の在来線降車駅



（資料：久留米定住自立圏新幹線利用者アンケート調査（平成23年））

2. 観光客の利用が多い北海道新幹線。地域間交流の起爆剤にも。

2016（平成28）年3月26日に新函館北斗～新青森間が開業した北海道新幹線。新青森～東京間を東北新幹線と接続して東京駅まで、現在は4時間を切って結んでおり、2030（令和12）年度末には札幌への延伸が予定されている。

開業直後にNHK函館放送局、北海道新幹線新函館開業対策推進機構、函館大学が行った「新函館北斗駅新幹線乗降客調査」では、観光目的で利用する利用者が約6割を占めている。

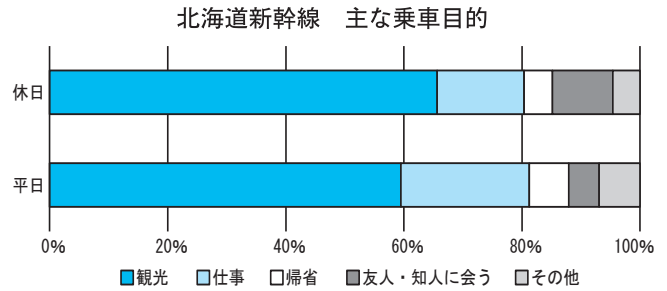
利用者の居住地も道外が87%、この中では青森県在住者が最も多く13%を占める。次いで東京都12%、宮城県10%、岩手県8%などとなっていた。ちなみに東京都からの来道者は航空機の利用が多く、開通翌年に北海道総合政策部交通政策局交通企画課が携帯電話の位置情報や情報サービス・アプリの利用実績等のビッグデータを活用して行った「北海道新幹線開業後における道内旅客流動調査」（以下「流動調査」という）では、東京都在住者の新幹線利用は、全来道者の5%を占めるに過ぎない。

流動量調査では、北海道新幹線開業前後で函館周辺の主な観光エリアにおける来道者の延べ滞在時間（時/日）の変化も調査しているが、開通翌年に関する限り、函館山は4割以上、大沼公園は2割増加し、このほか、湯の川、函館ベイエリア、元町、五稜郭では1割以上の増加が見られるという。

また、来道時の新幹線利用者は、函館市を含む北海道渡島振興局管内を起点に、札幌市を含む石狩振興局管内や、江刺市、奥尻島などを管轄する北海道檜山振興局などへの移動が多いが、道北への移動も一定数見られ、道内を広く移動しているという。

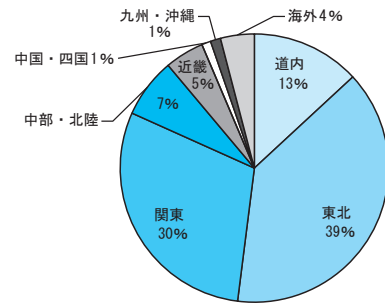
先に青森県在住者が新幹線を利用して来道することが多いと述べたが、北海道在住者が新幹線を利用する場合にも、行き先が青森県であることが多い。青森県と函館など道南は、古くは縄文時代から人の行き来があったが、昭和63年3月の青函トンネル開通を一つの契機として、この圏域を更に活性化していこうとする取り組みが進められている。行政においては「青函圏交流・連携推進会議」や「青森・函館ツインシティ」宣言に基づく交流事業のほか、大学、金融機関をはじめとする民間企業など、様々な主体が交流に参加している。

中でも、青森、南北海道の女性によるまちおこしグループ「津軽海峡マグロ女子会」（愛称「マグ女」）はご存じの方も多いのではないか。「津軽海峡を、もっともっと個性輝くエリアにしたい」とするこのグループは、2014年、北海道新幹線開業をきっかけに結成された。「津軽海峡エリアのすみずみに、お客様の通る毛細血管を張り巡らしたい」という思いで、2016年から「マグ女のセイカン♡博覧会」を実施している。これ



（資料：NHK函館放送局、北海道新幹線新函館開業対策推進機構、函館大学「新函館北斗駅新幹線乗降客調査報告書」）

居住地別 北海道新幹線利用者



（資料：NHK函館放送局、北海道新幹線新函館開業対策推進機構、函館大学「新函館北斗駅新幹線乗降客調査報告書」）

＜エリア別の滞在時間変化状況＞

開業前順位	エリア名	延べ滞在時間（時/日）		変化率（B/A）
		開業前(A)	開業後(B)	
1	函館ベイエリア	1,294,100	1,491,700	115%
2	湯の川エリア	939,800	1,099,600	117%
3	五稜郭エリア	565,700	645,000	114%
4	大沼国定公園周辺	419,600	505,200	120%
5	恵山周辺	362,500	369,500	102%
6	南茅部周辺	299,100	305,800	102%
7	北斗市上機	149,100	151,200	101%
8	元町エリア	137,600	158,300	115%
9	函館空港	131,500	130,500	99%
10	函館山エリア	125,600	180,400	144%
11	松前城・道の駅「北前船松前」周辺	89,400	91,100	102%
12	函館フェリーターミナル	80,500	84,200	105%
13	北斗市大野	77,500	76,100	98%
14	開陽丸青少年センター・江差追分会館・いしえ会館周辺	66,000	75,900	115%
15	福島町青函トンネル記念館・道の駅「横網の里ふくしま」周辺	58,100	58,000	100%

（資料：北海道総合政策部交通政策局交通企画課「政北海道新幹線開業後における道内旅客流動調査」）



15. 江差百人の語り部〜マグ女カフェランチ&歴まちガイド 散策

日時
4月中旬～11月中旬まで毎日開催
12:30～14:00頃

集合場所
北海道江差町・早月（さつき）蔵
チャミセ（北海道江差町字地神町18-1）

詳細はこちら ▶

は「地元を知り尽くした、たくましく、しなやかな女性たちが考えた、とっておきの寄り道旅」で、様々な企画がある。

こうした取り組みは、長野県飯山市を含む北陸新幹線沿線市町村でも見られ、近時「北陸新幹線沿線連絡会議」が発足した。行政界を超える行政計画の策定などには困難も多いが、新幹線開通を見据え、各種の連携の動きは多い。

3. 北陸新幹線上越妙高駅は、当駅始発・長野駅到着の上り臨時「はくたか」が通年運転されている

北陸新幹線上越妙高駅でも、上越妙高駅の停車機会を拡大していくことを目的として、平日（月～金曜日）の利用を増やすべく利用実態調査が行われている。この調査は、上越市企画政策部 新幹線・交通政策課が行ったもので、平日（月～金曜日）の利用状況を、朝の当駅始発・長野駅到着の上り臨時列車、午前の定期列車、午後の定期列車の3つの時間帯にわけ、把握、分析している。

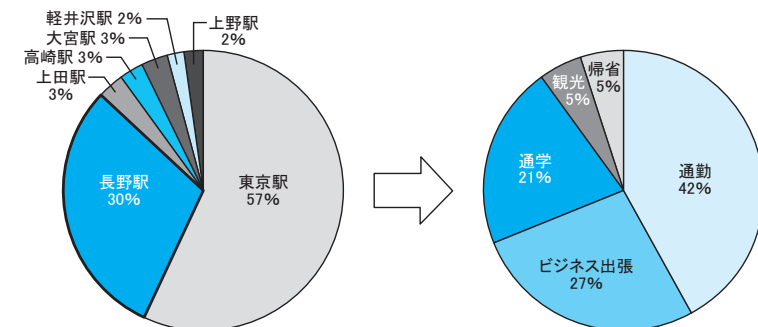
朝の臨時列車は、北陸新幹線上り定期列車の始発駅がすべて金沢駅で、当駅の上り始発列車が7時台となることから、利便性確保のために当駅と長野駅との間で運航されている（調査当時は2本、現在は1本）もので、この列車には長野駅で降車する利用者も多い。

注目されるのはこの列車を長野駅で降車する利用者の利用目的で、通勤・通学の利用者が全体の63%を占めている。同市は開業初年度にもこの調査を実施しているが、それに比べ22ポイント増加しており、「日常生活の中で新幹線を活用される方が徐々に増えてきている様子が確認できた」としている。

以上、いくつかの駅の新幹線利用者調査の結果をご紹介したが、地域間交流などは新幹線開業前から準備されていた場合が多い。また、国土交通省「幹線鉄道ネットワーク等のあり方に関する調査令和元年度調査結果」では、「乗降客数を増加させ、整備効果を拡大するためには、定住振興や観光振興、二次交通の強化といった施策を講じることが効果的と考えられる」としている。整備新幹線とリニア新幹線を同日に論じることには無理があるのかもしれないが、リニア開通を見据え様々な準備が必要なのではないか。

（文責：飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 中村 達）

朝の臨時「はくたか」降車駅の利用割合と長野駅利用者の利用目的
 臨時「はくたか」降車駅の利用割合 (N=63) 長野駅利用者の利用目的



（資料：上越市企画政策部 新幹線・交通政策課「交通政策調査対策特別委員会資料」
 （平成30年2月21日））

飯伊地区全産業景況DIの推移

